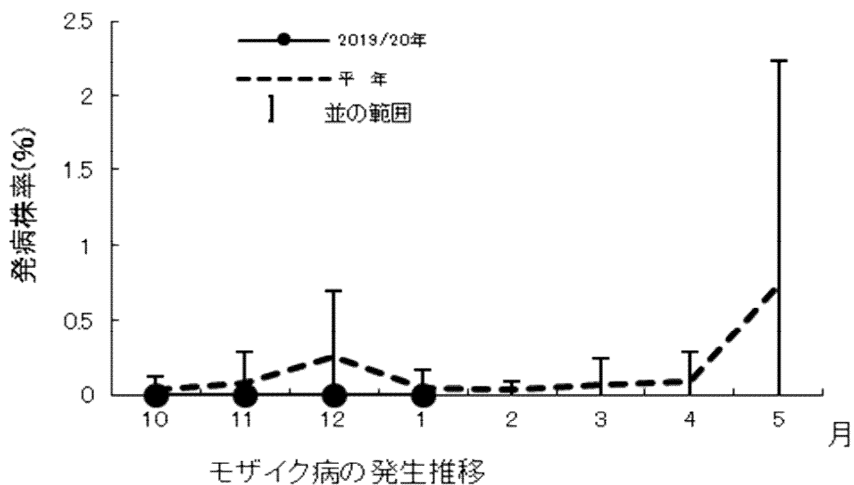



作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

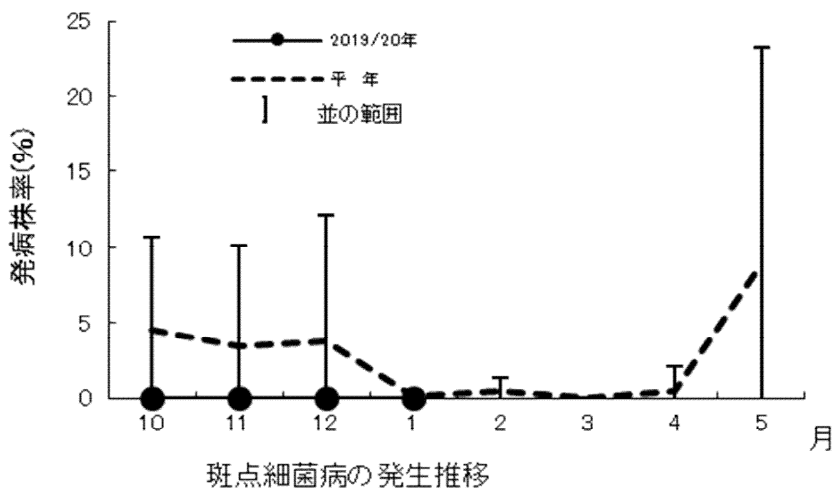


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

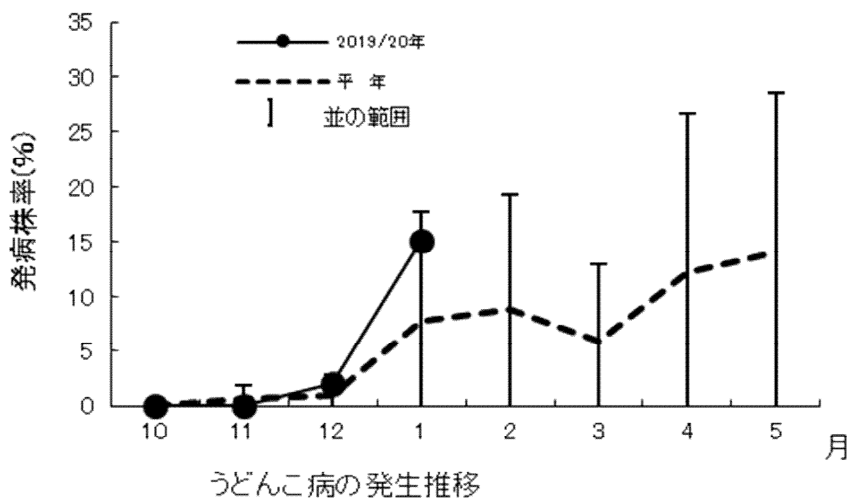


防除のポイント

- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



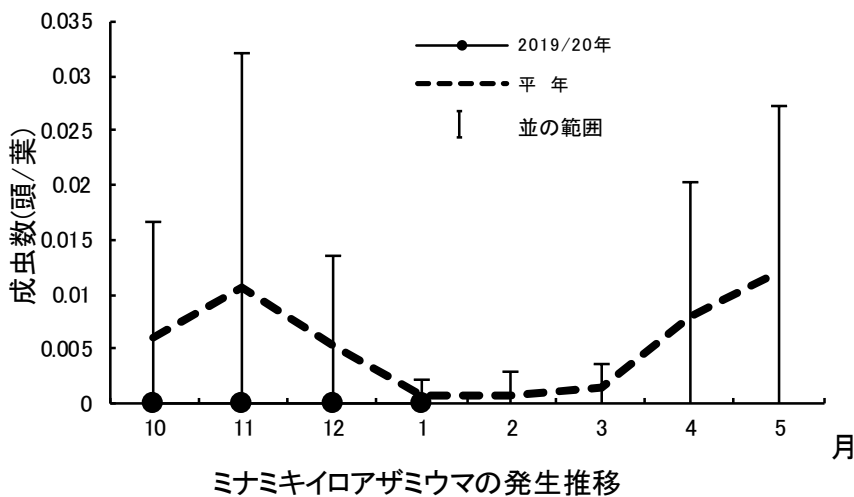
- ・分生子の形成・発芽適温は、25～30℃である。

防除のポイント

- ・通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

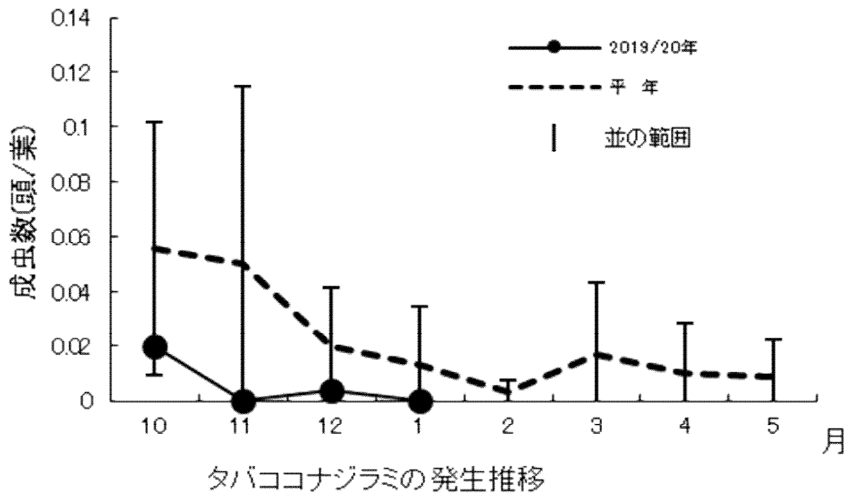


防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	


調査結果



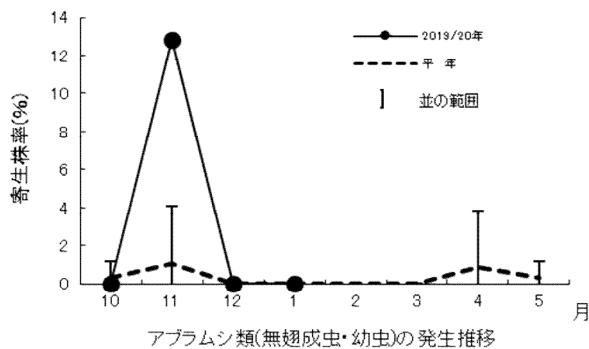
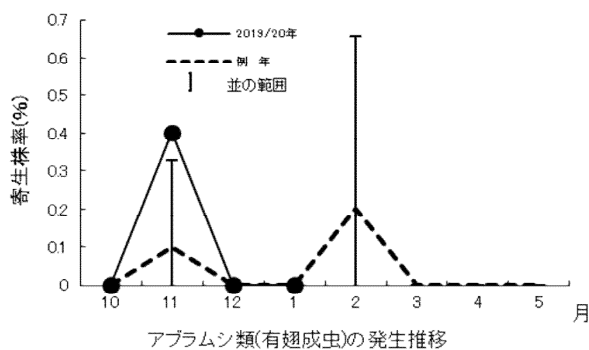
防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。




作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

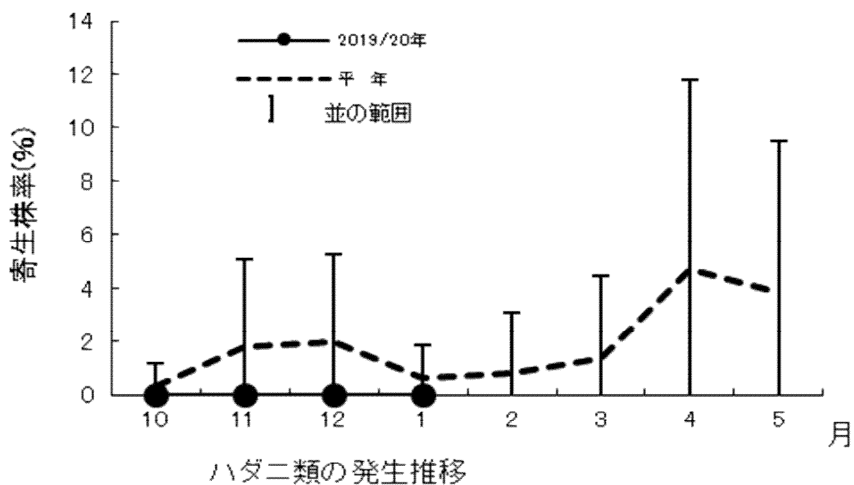


防除のポイント

- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		 <p>ナンゴクナミハダニ</p>
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。



ナミハダニ